



岩手県立大槌高等学校 インターラクト部、生徒会執行部 災害に強い住み良い地域づくり

震災後、復興研究会を立ち上げ様々な活動を行っている。復興研究会には防災町づくり班や定点観測班等があり、定点観測班は町内約180カ所の同じ地点から年3回写真を撮影している。津波と復興の過程を継承し、災害に強い住み良い地域づくりをイメージしながら活動を続けている。



岩手県立釜石高等学校 生物A班 EM 菌の浄化作用について

東日本大震災で起きた津波の影響で海底のヘドロが打ち上げられ、被災地で悪臭を放つことが問題となつた。そこで、EM(有用微生物群)菌という微生物に着目し、水質浄化作用を持つ好気性細菌がヘドロ分解に活用できるかどうか検証することを目的に研究を進めている。



岩手県立遠野緑峰高等学校 草花研究班

遠野の宝「ホップ和紙」～強韌な和紙の開発と新たな利用価値を求めて～
遠野のホップ栽培は、全国の栽培面積・収穫量共に市町村別でトップレベルのシェアを誇っている。廃棄された乾燥ホップ蔓100%を使った和紙作りに取り組む。さらに、ホップ和紙の「ランプシェード」や「ちゃんちゃんこ」の製作や販売を地域の人たちとともに進めている。



岩手県立盛岡農業高等学校／岩手県立一関第一高等学校 2年 JBC! 2!

リサイクルの現状

ボランティアクラブの視点から資源活用について学び、自分たちにできることは何かを考え、行動に移す。若い世代の高校生が、リサイクル活動に熱心に取り組む様子から、地域全体でリサイクル意識を高めようとする姿勢や、リサイクルの大切さを発信しアピールしている。



秋田県立秋田北鷹高等学校

科学部 ESD班

地球温暖化の理解・意識に対する環境教育プログラムの実践

地球温暖化について多くの人の行動・意識が変化することをねらっている。地域の児童館に協力してもらい、地球温暖化の『理解・意識』の高まりに焦点をあてたプログラムを構築。マレーシアに赴き現地中高生と協働でプログラムを実施。知識の高まりが、効果として認められた。



秋田県立金足農業高等学校

科学部

金農ミツバチプロジェクト

学校周辺に生息するニホンミツバチを飼育し、そのハチミツを多くの人に楽しんでもらいたいという思いで活動している。分蜂群を自作の巣箱に誘引・捕獲して養蜂を行い、採れたハチミツ中の残留農薬などの分析し地域環境の把握や遺伝資源の維持に貢献できるよう取り組んでいる。



秋田県立大曲農業高等学校

生物工学部

田沢湖に注ぎ込む沢に棲む生物についての研究

田沢湖にクニマスを戻すことを第一に考え、水質改善の方法を模索してきた。しかし改善すべきは水質だけでなく生態系であることに気づき、変わってしまった田沢湖の生態系を酸性前の状態に回復させる必要があると考え、その条件を実験的に探しながら研究に取り組んでいる。



宮城県気仙沼高等学校

自然科学部

環境のパロメーターとしての十八鳴浜の観察

鳴砂の海岸として国の天然記念物に指定されている十八鳴浜は、海洋汚染が進むと鳴らなくなるという環境のパロメーターとして注目されている。海岸浸食が問題視される中、砂が無くなる定義を明確にするため、砂の量を測り波の強さとの関係から砂が無くなる条件を探っている。



宮城県志津川高等学校

自然科学部

南三陸の自然の再生力と世界に誇る生物多様性

志津川湾の松原干潟で、震災以降初めて調査を行い、希少な生物の多様性豊かな自然環境であることが確認できた。多くの人たちにこの干潟が自然の姿に戻りつつあることを伝えたいと思い、「松原干潟の生き物たち」という自作の図鑑を作成し、町内の小中学校全てに配布を行った。



宮城県利府高等学校

ROGER(利府環境放射線観測班)・自然科学部

環境放射線・紫外線観測を通じての大気の状態の経時観測 告知の活動および地域との連携

近隣中学校と連携し、紫外線・γ線量計を共有しながら毎日の観測を行っている。紫外線量などは屋外での活動の多い本校生徒のために、毎日の定時・定点観測の結果を校舎中庭にパネルで告知し、全校の健康・安全管理に役立てている。また、町内の海水塩分の経年観測も行っている。



宮城県多賀城高等学校

SS科学部

Bursa.バスターズ～多賀城高校の松枯れの原因を探るPART2～

学校のアカマツ林に枯れたマツが目立ち、年を追うごとに被害が拡大している。そこで、3年前からアカマツ林の健康調査を開始。被害状況をレポートにまとめ、枯死の原因を追究している。活動は、①アカマツの健康状況調査、②マツノザイセンチュウの検出、③気孔の汚染調査など。



仙台城南高等学校

自然科学部

知ることは守ること! みんなで守ろう八木山のトウホクサンショウウオ

本校には毎年野生のトウホクサンショウウオ(宮城県レッドデータブック:準絶滅危惧種)の卵のうが確認されている。また、産卵場所が本校の水場だけであることがわかっている。そこで、生態調査を行い、水場の水質を改善し、保全のために多くの人に保護啓発活動を行っている。

